

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3 4 7 1 5 0 3 2 2 1
法人名	(株)QOLサービス 多機能地域ケアホーム
事業所名	多機能地域ケアホーム ありがとう グループホーム
所在地	〒721-0902 福山市春日町浦上1205 (電話)(084)948-0439
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31 大福ビル三吉201号
訪問調査日	平成19年8月20日

【情報提供票より】( 19年 6月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16年 1月 12日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19人 常勤 16人, 非常勤 3人, 常勤換算 16.9人

### (2) 建物概要

建物構造	造り 2 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 <u>無</u>	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	食費に含む 円
または1日当たり 1,500 円				

### (4) 利用者の概要( 6月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青葉台病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型多機能地域ケアの先導的施設であり、地域の民生委員や町内会の福祉担当役員に対して機関紙「ありがとう通信」を通じて施設を紹介するなど地域に開かれた施設である。運営者及び管理者は介護に関する研究・研修意欲が高く、パーソンセンタードケアの取組がいち早くなされている。尚職員が意欲を持って仕事出来るように介護知識や技術の習得にも熱心でありスタッフを大切にすることが入居者サービスの質の向上に連動している。管理者・職員は運営者の意思を尊重し、より良いケアを目指し夢を持ちながら更なる研究が継続されていることが伺える。回想法や生活暦を通してその方にとって感動ある体験をケアにおいて実践している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>担当者が出勤していない時でもサブリーダーが変わって家族の意見を聞く体制がある。介護計画、入居者家族の意見の反映については家族の意見を聞くために定期的に家族を含めた会議を実施している。職員のストレス解消にストレスコーピングを行っており、ケアの実践面では専門の先生の講習会。今後精神面のフォローが出来るように研究・研修を実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価について職員間で話し合いを行った。評価の意義や課題の取り組みについて運営推進会議の議題として地域・家族の意見を反映できるよう検討が行なわれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>自己評価と外部評価についての報告。利用者のケアの方針について介護費用等についての検討も行った。それを活かした取り組みとして運営委員への声かけにより地域のイキイキサロンへの参加が出来るようになった。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や苦情について文章に残し、職員間で共通の認識を持って対応している。さまざまな面で率直な話し合いができる体制づくりがなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との協力体制があり、地域の夏祭りや知的障害者施設の夏祭りへの参加、生き生きサロンへの参加等も行っている。図書館や支所でのサロンやコンサートにも参加している。</p> <p>課題としては、地域のグループホームとの連携を高めること。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目標をもってその人らしく笑顔で和みある生活」を理念としている。また、地域の方々との人間関係を蜜にし、盛んに交流している。しかし、当該施設の特徴である地域密着型サービスを、広く一般の方々に分りやすく伝える理念の文章化がなされていない。		地域密着型サービスの役割を考えながら、事業所としての理念をつくりあげていることが大切です。地域生活の継続支援と事業所と地域の関係強化を謳った内容を理念に取り組みることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「感動を生むケア」に取り組むという運営者の強い意思が職員の一人ひとりに浸透している。月1回のリーダー <sup>△</sup> 会やカンファレンスを通して入居者を理解し、その人に適したケアに結びつける日々の努力がなされている。		運営者のケアに対する熱意ある指導の基、理念が職員に浸透している。日々の努力と研修の成果により、実践に裏打ちされた取組である。それを次に継承し続けることが大切である。次世代に継承するための組織的な取り組みが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営委員会に民生委員や福祉を高める会の方々が出席し、活発な意見が出ている。その取組から地域の生き生きサロンへ入居者の方々が参加することになった。また、地域にある身障者の施設の夏祭りには全員が参加した。美術館や図書館などで行われるサロンコンサートなど行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を基に運営推進会議で話し合いを持った。又、家族や職員にも評価結果を報告した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の自己評価や外部評価を運営委員会で検討した結果、地域で行われる福祉を高める会が主催する生き生きサロンへ参加することになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の介護福祉課や社会福祉協議会などと連携し率直な意見を伝えている。		リハビリセンターや施設内での研修、全国レベルでの学会発表など、より良いケアを求めて積み重ねを行っている。その成果を福山市と連携して質の向上のために貢献されることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行する「ありがとう通信」の他に入居者の生活状況や健康状態について家族に報告書を郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や意見について直接管理者や職員に伝えてくれる場合が多い。苦情については文章化し、職員間で話し合い申し送りノートに記して漏れないように努力している。話し合った結果については家族に報告している。意見箱等、苦情の発信者が不明な場合は解決策について全家族に報告している。		家族との連携を大切にし、信頼関係を気づくために日々努力しているが、理解をえられないこともあるようだ。家族と職員との懇親会など、家族会を利用して互いの意思疎通を図る取り組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は入居者1～2名を担当しケアしている。職員の移動や離職が発生しても入居者へのダメージを最小限にするために2ユニット間で職員を少しずつ移動させ、どの職員も入居者を把握し、すぐに対応できるよう配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は誰もが一定レベルのケアが出来るよう、全国レベルの研修に順番で参加している。職員の一人ひとりが自分が作りたいグループホームを目指して研修を重ね、発表の機会を作っている。又、全国から講師を招いて勉強している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ交流を行っているグループホームはない。しかし、交流に向けて話し合いを行っている施設はある。		福山の地域で、夫々に特徴を持って活動しているグループホームが数多くある。お互いに交流を深め、地域ケアの質の向上に貢献されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスの入居者からグループホームへ入居された入居者が2名いる。最近ではグループホームに入居することを納得して利用する方が多くなった。本人及び家族が雰囲気になじまれるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながらかつ喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、回想ルームで入居者話を聴く取組や、生活歴を知ることによって、入居者を理解することに勤めている。それを基に本人が安心して、生き生きと生活されるよう取り組んでいる。食堂の経営者であった入居者が毎日の食事作りを主体的に取り組んでいる。茶道教授であった入居者のお茶の時間等に活かされている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の身体状況により居室やお風呂場などの手すりを本人に合わせて新たに設置している。家族からの要望などについて、本人が拒否し、嫌がる場合など、家族との話し合いを持ち理解していただくよう努力している。1年に1度、本人が希望する所へ家族を交えて泊旅行を行っている。今年度は入居者の体調や家族の状況を踏まえより多くの方が会見できるよう食事会などの計画を立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は1～2名の入居者を担当して介護計画を作成している。日頃から入居者の意思や状態の把握に努めている。おおむね家族と事前に話し合いを持って介護計画を作成した後に再度家族の意見を求め、署名をもって承認を受けている。		日々の取り組みとして家族の意見を取り入れることに努めているがさらに、介護計画を作成するために問題を明確に提示し、家族の意見の真意を理解すること等、家族が十分納得されるように話し合い、その上で介護計画を作成されることが望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は4ヶ月から6ヶ月ごとに見直しを行っている。入居者に対応できない変化が生じた場合はその都度見直ししている。しかし、介護計画の実施した内容に対する評価や入居者や家族の意見などが分かりにくい。		介護計画のモニタリングや評価をより充実し、見やすく分かりやすい書式の工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの了解を得た場合は行事に参加している。又、入居者が送迎時に同行しドライブなどを行っている。日曜日を利用し、リハビリセンターの器具を使ったトレーニングを行うなど事業所の多機能性を活かしたケアを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所から半径1,5KM以内の病院へ受診する場合は同行受診している。又、入居者が希望する医療機関との連携は取れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態の変化に応じて、早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、家族の希望を取り入れた対応を行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシー大切に本人を傷つけない配慮がなされていた。職員との会話の中にも入居者のプライバシーについての配慮した対応がなされていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度によって生活のリズムの違いを職員が意識して、入居者のペースを尊重している様子が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が同じテーブルを囲んで食事をし、さりげない食事支援がなされていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を取り入れた対応がなされている。入居者の状態によっては職員が抱きかかえて入浴するなど、入居者に合わせた支援がなされている。手摺等の配置にも考慮がなされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域行事への参加・見学や散歩・買い物・ドライブ等楽しみごとや気晴らしへの支援はなされていた。なお“うどん”等料理のできる入居者には、その得意分野を生かした支援もなされていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事への参加・見学や散歩・買い物・ドライブ等楽しみごとや気晴らしへの支援はなされていた。活用すれば十分な運動や日光欲が楽しめる、散歩に活用できる広い庭がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けられていない。入居者の自由な暮らしが保たれている。職員はさりげなく入居者の行動に気配りがなされている。徘徊の傾向のある入居者についてはGPSを使用している。		
		災害対策			
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	近隣・町内会等運営会議の中で、協力を要請している。ホームには広い窓と、ウッドデッキが設置されておりハード面も整備がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量等を職員は把握している。食事介助の間にも食事と水分をバランスよく与える配慮がなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間等、床材には桐材を使用し転倒時に入居者の怪我防止に配慮し、壁材は珪藻土を使用して除湿・においなどに対するは配慮がなされていた。室の入口には自分の部屋であることの意識を向上させるため写真等を飾った工夫がなされていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の要望を取り入れ、ベッドの位置等にも工夫が見られた。入居者によっては馴染みの家具を置いて環境づくりの工夫がなされていた。畳の部屋を希望する入居者には畳の部屋もあり、入居者の希望を取り入れている様子が伺えた。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 多機能地域ケアホームありがとう グループホーム

評価年月日 19年 8月 20日

記入年月日 19年 6月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行なって下さい。

記入者 職 管理者 氏名 仲肥 好美



# 地域密着型サービス評価の自己評価票

ユニット 1

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者の感動を生むケアの提供という理念にもとづく		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パーソンセンタードケアを常に考え日々のケア、カンファレンス、ミーティングが行われている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は各ユニット共、目に届きやすい位置に設置しており、毎月の”ありがとう”通信のご家族、各公共施設、役所、民生委員などへ配布している		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣者から農作物を頂いたり、庭の草花の手入れ、窓ガラスの掃除などボランティアの協力が続いている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、いきいきサロンへの参加		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者による、随時、電話などによる相談、或いは他施設の 情報提供など行っている。</p>		<p>勤務年数、有資格者に応じて、スキルアップを推奨</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果は職員を含めご家族にも送付、運営推進会議でも報告している</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>それぞれの立場で活発な意見が出ており、サービスの向上、協力要請などへ生かしている</p>		<p>来年の確定申告前には事前に税理士の先生による説明会を予定している</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課へ訪問調査の対応について相談している</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>代表者と、その他全体でケアマネ3名が研修に参加している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員間で問題を共有、ストレスの軽減を図っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	全文を口頭により説明し、時間をかけて疑門の解消に努めている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱の設置、しかし、口頭或いは電話での直接の発言がある		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、生活状況をご家族に送付している		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議、各種行事、家族会など、ご家族参加の機会を作り、気軽に訪問して頂ける環境を心がけている		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のリーダーミーティングを設け職員の意見の抽出を図っている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の状態に合わせて柔軟に対応している		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット間は常に交流し、関連施設全体の協力体制もある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国レベルのグループホーム学会、認知症ケア学会などへの参加発表(3~4名)、毎年1~2名の海外研修、	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修により交流を図り、互いに相談対応できる関係維持に努めている	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	体調により年休の利用、田ユニットへの移動なども考慮している。職員の状況のストレス評価による把握を心がけている	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年施設内学会、全国大会を目指して、代表者の直接指導している	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネ、ご家族にホームへの見学、直接面談、自宅への面接にも2名のスタッフで訪問、ご本人の様子を充分聴く努力をしている	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の協力無くして本人を支援していく事は困難である事を互いに共有して、十分な話し合いをする事で対応を検討している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞いたうえで、費用なども説明、場合によっては特養、老健の検討などを紹介		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在DSの利用から入居の方が2名居られる。入居後も色々な方からの声掛けがある		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に笑顔をの時間を共感、又は昔の生活を聞いたり、感謝の言葉を伝えることの出来る場面作りを心がけている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会は入居者1人一人のその日に、できるだけご家族と共に開催している。外泊、外食、映画、外出など家族を巻き込んだ支援を心がけていると本人家族と相談しながら計画している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年1回のご家族との一泊旅行、炭火焼秋刀魚パーティー、外出支援など全員、グループ、個別に実施、情報の収集の機会を持っている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会の方々がゆっくり過ごせるように別室も用意全体で1室		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	収穫、保存食、石鹸作りなど共同作業の機会、個々の誕生会への参加など		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状、一周忌のお参り		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケアの考え方にに基づき、本人のその人らしいせい活支援を心がけている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時以外にも、ご家族や、親族の面会時に、時間を頂いて、生活歴へ随時記入している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人に日々、寄り添い、観察している		脳梗塞の早期発見2症例
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や平素より本人に寄り添う中で希望を聴取		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化に伴い、本人、家族、スタッフで協議随時変更		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ご利用者を担当制とし、色別カード記入により、他スタッフからの情報収集も心がけている。計画書に結果を記し、次回へ向けて対応を検討</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>自社の各種施設、設備の利用</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>各地域の民生委員の見学、認知症介護研修の受け入れ 各機関の連絡連携あり</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ご家族の希望により重度医療デイサービスを4月までADL回復のため施設負担で医療デイサービスの利用をそれぞれ利用していた</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>必要に応じて連絡相談できる相互関係あり</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人ご家族の意向により、主治医を選択、本人の状態により主治医からの専門医への紹介による受診支援もしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	在宅に熱心な主治医との連携に努めている		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	常勤1名非常勤3名の看護職による健康管理が行われている。あボランティアの歯科衛生士の訪問指導、訪問歯科の紹介も受けている		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	1ヶ月以内の退院に向けて、入院時より医師との連携をしている		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	書面にてご家族より終末期の希望を聴取、医師、ご家族、スタッフ同席の基、納得のいく対応を考慮		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	常勤看護師の勤務体制見直し、非常勤看護師、社内他事業所看護師の協力や、医師との連携を図っている		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	出来る限り身の回りの物品の持込を依頼している		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	配慮している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	担当スタッフと他スタッフ全員で対応法などを共有、支援している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を望まれるご家族も居られるが、本人の精神負担とならない配慮の中、各々の生活リズムを支援	
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各々行きつけの美容院を選択、外出支援している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの能力に合わせて、食事作り、おやつ作り、後片付け、食器拭きなどしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好、体調、嚥下状況により、スタッフと共に過ごしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本とし、排泄記録管理により、必要な食品、マッサージなどを支援		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望により、朝、日中、夜間いつでも入浴可能 また、本人のタイミングを重視している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体調により、午前や、午後の休息をとったりする事で次の生活の活性化を図ったり、午前中の日光浴の必要と考え、木陰でのティータイムなどもしている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意な料理、大工仕事、縫い物等の依頼、畑の収穫、保存食作り、(らっきょ、梅ジュース)お抹茶のお手前の日、などの活動を支援		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には自由に買い物をしてもらい、一定範囲の自己管理を支援、買い物に行った時、支払いをお願いしたりしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できる限りの対応を心がけている。現在一日3回、(一時間)の散歩も支援		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族、スタッフ、入居者の揃っての一泊旅行を毎年実施、本人の行きたいところを、平素より聴取して支援している		宮島へ一人二人と 希望により外出

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の年賀状の配布、家族への年賀状の作成の支援、コードレスホンの使用により自室での電話対応も可能である		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	庭先からのより気軽な面会も可能となる		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は無いが、言葉による拘束に当たらないかなど常にカンファレンスでも互いに協議している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特別な場合を除いて、日中開錠している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の居場所に留意している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リスク管理のもと、本人の生活の場所であることを基本に考えている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険度色別ヒヤリハットを記入によりスタッフ全員で問題の共有を図り改善案を考えている。SOSネットワーク、いまどこサービスの利用も家族に紹介、利用している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年消防署職員による救急救命講習を実施、連絡体制に備えている。ケアホームにAEDの設置		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣、ご家族への消防訓練の案内を配布により協力を要請している		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	すべての危険因子を排除するのではなく、本人らしい生活を最優先しながら、ご家族へもリスクについて説明、了解の下支援している		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の入居者の状況に気を配り、主治医への相談をしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録への記入、お薬情報も添付して管理している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖、寒天、ゼリー、食物繊維、水分などを摂取を根気良くしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の拒否がない限り、毎食後の口腔ケアを実施している。必要な時は訪問歯科医のアドバイス、指導を受けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取、嚥下など個々の状態により補助食品の対応も考慮している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにより蔓延を防止、空気清浄機2台のリビングでの活用 各居室1台ずつ加湿器を完備		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い方法の掲示、夜間時台所用品の熱湯消毒と除菌を実施 残食を持ち越さない		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭先からの出入りも可能、		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁のディスプレイ、ウッドデッキの草花、庭の果木、浴室の暖簾、いろいろなソファなどによるくつろぎのスペース		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	DVDやビデオ鑑賞もできる、回想ルーム、堀コタツのある和室		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、今まで使用してきたものを持参、本人の環境作りをしている。本人の希望で、畳の部屋も用意しました		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングに2台の空気清浄機を配備、冬季は各居室に加湿器を配備 壁材は身体にやさしい、珪藻土のため、壁への直接の霧吹きにより保湿もしている		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下のみならず、必要などころには居室にも手すりを設置している		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口の工夫、暖簾、ソファなど利より自室の確認しやすい配慮		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ、果実のなる庭、めだかや金魚のいる池、裏の畑など		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族もいろいろな問題を抱えているとおもいます。 本人の笑顔のある生活をともに支援していくことを目標にしています。



## 多機能地域ケアホームありがとう 自己評価票 (ユニット-2)

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

  

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者による、随時、電話などによる相談、或いは他施設の情報提供など行っている。サブリーダー 認知症介護アドバイザー1名</p>		<p>勤務年数、有資格者に応じて、スキルアップを推奨</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果は職員を含めご家族にも送付、運営推進会議でも報告している</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>それぞれの立場で活発な意見が出ており、サービスの向上、協力要請などへ生かしている</p>		<p>来年の確定申告前には事前に税理士の先生による説明会を予定している</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課へ訪問調査の対応について相談している</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>代表者と、その他全体でケアマネ3名が研修に参加している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員間で問題を共有、ストレスの軽減を図っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	全文を口頭により説明し、時間をかけて疑門の解消に努めている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱の設置、しかし、口頭或いは電話での直接の発言がある		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、生活状況をご家族に送付している		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議、各種行事、家族会など、ご家族参加の機会を作り、気軽に訪問して頂ける環境を心がけている		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のリーダーミーティングを設け職員の意見の抽出を図っている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の状態に合わせて柔軟に対応している		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット間は常に交流し、関連施設全体の協力体制もある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全国レベルのグループホーム学会、認知症ケア学会などへの参加発表(3~4名)、毎年1~2名の海外研修、</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種研修により交流を図り、互いに相談対応できる関係維持に努めている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>体調により年休の利用、田ユニットへの移動なども考慮している。職員の状況のストレス評価による把握を心がけている</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎年施設内学会、全国大会を目指して、代表者の直接指導している</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当ケアマネ、ご家族にホームへの見学、直接面談、自宅への面接にも2名のスタッフで訪問、ご本人の様子を充分聴く努力をしている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の協力無くして本人を支援していく事は困難である事を互いに共有して、十分な話し合いをする事で対応を検討している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞いたうえで、費用なども説明、場合によっては特養、老健の検討などを紹介		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在DSの利用から入居の方が2名居られる。入居後も色々な方からの声掛けがある		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に笑顔の時間を共感、又は昔の生活を聞いたり、感謝の気持ちを伝える場面を作るように心がけている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会は入居者1人一人のその日に、できるだけご家族と共に開催している。また外泊、外食、映画、外出と本人家族と相談しながら計画して家族も巻き込んで支援を心がけている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年1回のご家族との一泊旅行、炭火焼秋刀魚パーティー、外出支援など全員、グループ、個別に実施、情報の収集の機会を持っている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の方々がゆっくり過ごせるように別室も用意、全体で1室		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	収穫、保存食、石鹸作りなど共同作業の機会、個々の誕生会への参加など		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状、一周忌のお参り		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1.一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケアの考え方に基づき、本人のその人らしいせい活支援を心がけている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時以外にも、ご家族や、親族の面会時に、時間を頂いて、生活歴へ随時記入している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人に日々、寄り添い、観察している		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や平素より本人に寄り添う中で希望を聴取		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化に伴い、本人、家族、スタッフで協議随時変更		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者を担当制とし、色別カード記入により、他スタッフからの情報収集も心がけている。計画書に結果を記し、次回へ向けて対応を検討		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自社の各種施設、設備の利用		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各地域の民生委員の見学、認知症介護研修の受け入れ 各機関の連絡連携あり		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族の希望により重度医療デイサービスを4月まで利用		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡相談できる相互関係あり		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族の意向により、主治医を選択、本人の状態により主治医からの専門医への紹介による受診支援もしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	在宅に熱心な主治医との連携に努めている		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	常勤1名非常勤3名の看護職による健康管理が行われている。あボランティアの歯科衛生士の訪問指導、訪問歯科の紹介も受けている		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	1ヶ月以内の退院に向けて、入院時より医師との連携をしている		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	書面にてご家族より終末期の希望を聴取、医師、ご家族、スタッフ同席の基、納得のいく対応を考慮		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	常勤看護師の勤務体制見直し、非常勤看護師、社内他事業所看護師の協力や、医師との連携を図っている		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	出来る限り身の回りの物品の持込を依頼している		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	配慮している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	担当スタッフと他スタッフ全員で対応法などを共有、支援している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を望まれるご家族も居られるが、本人の精神負担とならない配慮の中、各々の生活リズムを支援	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各々行きつけの理美容院を選択、外出支援している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの能力に合わせて、食事作り、おやつ作り、後片付け、食器拭きなどしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好、体調、嚥下状況により、スタッフと共に過ごしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、排泄記録管理により、必要な食品、マッサージなどを支援</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人の希望により、朝、日中、夜間いつでも入浴可能 また、本人のタイミングを重視している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>本人の体調により、午前や、午後の休息をとったりする事で次の生活の活性化を図ったり、午前中の日光浴の必要と考え、木陰でのティータイムなどもしている</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>本人の得意な料理、大工仕事、縫い物等の依頼、畑の収穫、保存食作り、(らっきょ、梅ジュース)お抹茶のお手前の日、などの活動を支援</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な方には自由に買い物をしてもらい、一定範囲の自己管理を支援、買い物に行った時、支払いをお願いしたりしている</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>できる限りの対応を心がけている。現在一日3回、(一時間)の散歩も支援</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご家族、スタッフ、入居者の揃っての一泊旅行を毎年実施、本人の行きたいところを、平素より聴取して支援している</p>		<p>要介護5の方と家族、スタッフで、思いでの宮島へも行きました</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の年賀状の配布、家族への年賀状の作成の支援、コードレスホンの使用により自室での電話対応も可能である		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出入り口が変更になった事で、庭先からのより気軽な面会が可能となる		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院でミトンなどによる身体拘束を受けていた方も、現在問題なくすごしている。身体拘束は無いが、言葉による拘束に当たらないかなど常にカンファレンスでも互いに協議している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特別な場合を除いて、日中開錠している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の居場所に留意している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リスク管理のもと、本人の生活の場所であることを基本に考えている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険度色別ヒヤリハットを記入によりスタッフ全員で問題の共有を図り改善案を考えている。SOSネットワーク、いまどこサービスの利用も家族に紹介、利用している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年消防署職員による救急救命講習を実施、連絡体制に備えている。ケアホームにAEDの設置		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣、ご家族への消防訓練の案内を配布により協力を要請している		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	すべての危険因子を排除するのではなく、本人らしい生活を最優先しながら、ご家族へもリスクについて説明、了解の下支援している		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の入居者の状況に気を配り、主治医への相談をしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録への記入、お薬情報も添付して管理している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖、寒天、ゼリー、食物繊維、水分などを摂取を根気良くしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の拒否がない限り、毎食後の口腔ケアを実施している。必要な時は訪問歯科医のアドバイス、指導を受けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取、嚥下など個々の状態により補助食品の対応も考慮している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにより蔓延を防止、空気清浄機2台のリビングでの活用 各居室1台ずつ加湿器を完備		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い方法の掲示、夜間時台所用品の熱湯消毒と除菌を実施 残食を持ち越さない		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭先からの出入りも可能、		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁のディスプレイ、ウッドデッキの草花、庭の果木、浴室の暖簾、いろいろなソファなどによるくつろぎのスペース		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	DVDやビデオ鑑賞もできる、回想ルーム、堀コタツのある和室		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、今まで使用してきたものを持参、本人の環境作りをしている。本人の希望で、畳の部屋も用意しました		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングに2台の空気清浄機を配備、冬季は各居室に加湿器を配備 壁材は身体にやさしい、珪藻土のため、壁への直接の霧吹きにより保湿もしている		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下のみならず、必要なところには居室にも手すりを設置している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口の工夫、暖簾、ソファなど利より自室の確認しやすい配慮		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ、果実のなる庭、めだかや金魚のいる池、裏の畑など		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族もいろいろな問題を抱えているとおもいます。 本人の笑顔のある生活をともに支援していくことを目標にしています。